

## 「言語政策」の発生

—— 言語問題認識の系譜 ——

安 田 敏 朗

- 第 1 章 はじめに
- 第 2 章 「国語政策」と「言語政策」と
  - 第 1 節 「国語政策」
  - 第 2 節 「言語政策」
  - 第 3 節 意味の差異
  - 第 4 節 学問的対象としての「言語政策」
- 第 3 章 「言語問題」の覚醒
  - 第 1 節 「国語」確立期 —— 上田万年の場合 ——
  - 第 2 節 植民地領有期 —— 新村出など ——
- 第 4 章 「言語問題」発生の可能性
  - 第 1 節 「国語問題」の整理と日本での発生可能性 —— 保科孝一の場合 ——
    - 第 1 項 欧州留学と言語問題
    - 第 2 項 日本での発生可能性 —— 『独逸属領時代の波蘭に於ける国語政策』 ——
    - 第 3 項 対処法としての「国家語」 —— 『国家語の問題』へ ——
    - 第 4 項 「満洲国」と「国家語」
    - 第 5 項 「大東亜共栄圏」と「国家語」
  - 第 2 節 「バイリンガリズム」という装置 —— 安藤正次の場合 ——
    - 第 1 項 安藤正次略歴
    - 第 2 項 欧州の言語問題 —— 「アイルランド自治州の国語政策 ——」
    - 第 3 項 「バイリンガリズム」の問題 —— 「二語併用地域における言語教育」 ——
    - 第 4 項 「国語問題」の分類
    - 第 5 項 植民地での「二語併用」異常視と「大東亜共栄圏」の言語編制
    - 第 6 項 安藤正次の言語政策論
    - 第 7 項 安藤正次の影響力
- 第 5 章 おわりに

### 第 1 章 はじめに















































































